



発行所：認定NPO法人ベトナム子ども基金

〒113-8642 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館内

電話：03-3945-2415

電子メール：info@v-c-f.org ホームページ：http://www.v-c-f.org/

ベトナム子ども基金通信

No.80

2022.3.1



2021年2月奨学金支給の様子(ホーチミン市)

グエン・ドク・ホウエ先生が旭日小綬章を受章されました。これは、ホウエ先生が30年前に設立したドンズー日本語学校から5000人を超える留学生を日本に送り出し、日越の文化交流に貢献したことに対する顕彰であると思いますが、私はもう一つ、ドンズー日本語学校発足と同じ頃設立された「ベトナム子ども基金」の長年にわたる地道な努力が評価されたこともあると思います。ベトナム子ども基金は「ベトナムの貧困家庭の子どもたちが教育を受け、未来に希望を持てるように応援していただきたい」とホウエ先生からの願いを受け、1995年6月に当時アジア文化会館の職員であった近藤昇氏(当基金理事長)が多くの人に声をかけて始まった基金です。この基金の事務所はアジア文化会館の中にあり、運営にあたる役員・事務職員は完全に無給のボランティアで働いてきました。ホウエ先生の崇高な理想に共鳴し、ベトナムの貧困家庭の向学

心の高い子どもたちを支援したいという心ある、草の根の日本人の方々の寄付を得て、「ベトナム子ども基金」は今日まで途絶えることなく活動を続けてくることができました。今回の受章理由の中に「ベトナム子ども基金」のことは触れられてはいませんが、私は間違いなく、この活動が高く評価されているものと信じています。

「ベトナム子ども基金」がこれからもベトナムの子どもたちの教育に役立つことを願い、長く支援を続けることができるよう、内外の皆さまのご支援をお願い申し上げます。

元アジア文化学生協会理事長
ベトナム子ども基金理事
小木曾友

～大学生の夢をかなえることを応援する奨学金～ ヴォン・レン基金

2021年2月から3月にかけて「ヴォン・レン基金」にご寄付を頂き、誠にありがとうございました。

ベトナム子ども基金設立25周年とホウエ先生の勲章受章をお祝いして、ヴォン・レン基金へのご寄付を募ったところ、なんと70名の方から2,056,500円のご寄付金を頂きました。お祝いの言葉とお金はベトナムへ送ってあります。皆さまの温かいお心に感謝申し上げます。

ヴォン・レン基金の活動

感染爆発の影響で2021年5月頃からベトナム各地でロックダウンが始まりました。ホーチミン市では、学生寮が集中隔離病院に改築され、大学生たちは故郷に戻りました。下宿住まいの学生たちも家賃を節約するために帰省し、ヴォン・レン基金の大学生たちは離れ離れになりました。

少し落ち着いた頃、オンラインで活動が再開されましたが、インターネット回線が不安定な地域もあり、停滞を招きました。2021年9月末にロックダウンが解除され、活動再開の兆しはあるものの、長期的にはまだ不透明です。学生たちがまた一堂に会して、学び合い、高め合い、励まし合う機会を増やし、夢の実現に向かって、もう一度期待に胸をふくらませてほしいと願っています。皆さまからの温かいご寄付は、不安でいっぱいの子を励ます、一筋の光となりました。心より御礼申し上げます。

このたび大学生のひとりから、コロナ禍のレポートが届きましたので、その日本語訳を同封します。ぜひご覧くださいませ。

ヴォン・レン基金の奨学金で活動する大学生から届いたコロナ禍の活動レポート

翻訳：ベトナム子ども基金事務局

変動と挑戦の学年

2021年11月1日

私は、ドアン・ティ・ハンです。ベトナム国家大学ホーチミン市校人文社会大学ジャーナリズム専攻の学生です。幸運にもヴォン・レン基金から奨学金を頂いている学生です。

COVID-19のパンデミックは本当に恐ろしいです！パンデミックは突然、多くの人たちを失業や生活費がなくなるなどの状況におとしめました。多くの人の生命さえ奪いました。本当に幸せなことに、今このときまで私は元気で、この1年間にしたことを振り返ることができます。

2021年4月中旬、私はニントゥオン省の山間部、マーティ地区へのボランティア活動に参加しました。「夜の蛍」というボランティア・クラブで「虹を照らす」というプログラムを行いました。私たちは3昼夜ラグライ族を支援しました。いくつかの学校の校舎を修理したり、ラグライ族の子どもたちの夢の種を育てるために、奨学金や生活必需

品を渡したりしました。この愛のボランティアの旅は、私にたくさんの経験やもっと人生を大切に感じることに、私以上の困難を抱える人たちと困難を分かち合うことを知りました。

この期間に、カトル・ティ・シンさんの声を通じてラグライ族の叙事詩を聴くことができました。とても悲しいことに、このようなラグライ族の叙事詩という芸術はすでに失われ、ヒロイックな叙事詩を吟ずる人はほとんどいません。

私は、ホーチミン市で新型コロナの感染爆発する前の5月半ばにクアンナム省の実家に帰省することができ、今も実家にいます。オンライン授業を受けるほかに、ワクチン接種のボランティアをしました。先日の10月20日に貧しい人たちの支援のための花を売る活動をするために、若者を集めました。

10月20日はベトナム婦人デーで、ベトナムの女性をたたえる日です。この日は、子ども、夫、そのほかの男性が自分の人生に関わる女性たちに、感謝や愛や尊敬の気持ち

▶ ボランティア活動の様子



を表します。多くの男性は花やプレゼントを買って女性に贈ります。花が最も喜ばれる贈り物で、花にはその女性の美しさや優しさを賞賛する意味があるのです。

私たちはこの活動で得たお金で医療資源（マスク、ビタミンC）、お菓子、果物を買って、クアンナム省タムキー市ファムゴックタック病院でコロナ治療中の山間部のナムチャーミー地区の人たちに贈りました。

これらの経験は、最前線の「兵士」の困難の一部を理解するのに役立ちました。感染を早く抑制するための白衣の戦士たちの沈黙の犠牲に感謝します（翻訳者注：「兵士」とは医療関係者のことです。ベトナムではこの表現をよく

用います）。

私はまた、自分の自由な時間を利用して、いくつかの新しいことを学びました。ウクレレを始めました。まだ始めたばかりですから基本的なコードが弾けるだけです。曲を演奏するには、まだたくさん練習しなければならないと思います。

それ以外に、多くの時間を使ってブログを書きました。若い人たちのために知識と経験を共有し、彼らの人生についての雑多な話をする記事です。このブログがみんなの注目を集めてうれしいです。読んでくれた人が私にたくさんのお話をし、生活のいろいろな問題のストレスから私の心を和らげてくれます。

私は本を読むのも大好きです。読書は今や習慣であり、多くの有用なことで新しい知識をくれる喜びです。

来るべき時期にベトナムは感染を抑制し、きっと私たちはニューノーマルの生活をするようになるでしょう。

私は今も、ヴォン・レン基金の先生方の教えや支援にふさわしく、そして、最前線の兵士の犠牲に応えるために、何事にも少しずつ努力を続けています。



続けて、ドアン・ティ・ハンさんによる
コロナ禍の生活レポート

2021年11月3日

ベトナムでは4月末、4月30日（祖国統一記念日）、5月1日（メーデー）の連休から感染が拡大しました。ホーチミン市が感染爆発したのはそれより少し遅れ、5月末から6月の初めです。私は5月半ばにトラックで帰省しましたが、親戚のおじが一緒だったのであまり大変ではありませんでした。

しかし、私を知る、実家を離れて勉強している学生たちは、こんなにラッキーではありませんでした。多くの学生は、ホーチミン市で感染爆発した後も市内に閉じ込められ

てしまいました。飛行機も列車も長距離バスも全ての交通機関が運行停止してしまったからです。

そこで、多くの組織が妊娠中の女性、子ども、高齢者、学生、貧しい人々を無料でふるさとへ送り届ける活動をしました。

しかし、助けられる人数には制限があり、大勢の人たちがホーチミン市で身動きがとれなくなったり、何百キロの距離を自分のバイクで移動したりしなければならなくなりました。たくさんの家族がまだ1歳にもならない赤ちゃんを連れていました。途中の多くの地域で、国道を歩いてふるさとに向かって移動する人々に水や食料を支援しました。それらを通して、私は、ベトナムは強靱^{きょうじん}で愛と団結力^{きょうじん}に富んでいると感じました。

(私の実家がある)クアンナム省は、今も新型コロナ感染症の管理下にありますが、感染者数は多くありません。ほとんどの人はすぐに隔離されます。だから、ふるさとと私の家族の生活はかなり落ち着いていて、あまり影響はありません。しかし、お祭りや結婚式、葬儀は簡素にしなければならず、参加者人数も制限されています。

10月26日までに、クアンナム省の山間部ナムチャーミー郡でクラスターが出ました。200人近い学生が感染しましたが、行政が流行を迅速に特定したため感染は抑制されました。

私は2020-2021年度2学期の半ばである5月、ホーチミン市がまだ感染爆発していないときに1日だけのつもりで帰省しました。

しかし、その直後、学習機会を確保するとともに感染を予防するため、学校は急に授業をオンラインに変更しました。そのため、試験もオンラインになりました。前

の学年は、例年より遅れて修了しました。

今は、2021-2022年度の1学期で、今もオンライン授業です。予定では、オンライン授業は2021-2022年度1学期修了まで続くことになっています。前の学期から始まったのもう慣れたし、私はあまりオンライン授業で困ったことはありません。快適に勉強しているし、オンラインで勉強するための新しい方法もを見つけました。

感染状況は複雑なので、ハノイ市、ダナン市、ホーチミン市などの大都市の2021-2022年大学新入生は、2021年9月にオンラインで入学しました。今もオンラインで勉強しています。

多くの新入生は、大学の勉強にもオンライン授業にも慣れていないので、「とても寂しい、直接話す友達が見つけれない」と嘆いています。新入生たちは、自分の夢だった大学の教室に座り、普通に勉強できる日を待ち望んでいます。

勲章授章式が行われました

コロナで延期されていましたが、ホウエ先生の勲章授与(旭日小綬章)は、この2021年12月7日に、ホーチミン市の日本領事館によって無事に執り行われました。多くの方からお祝いを頂き感謝申し上げます。



左 渡邊信裕在ホーチミン日本国総領事

〈支援地域変更のお知らせ〉

ベトナム子ども基金はベトナムのホーチミン市、ドンズー日本語学校内にある「青葉奨学会」を通じて、ベトナムの貧困家庭の子どもたちが「将来に希望を持てるように応援する」教育支援活動を26年間にわたりしてまいりました。近年は、里親基金で毎年250人前後、黄梅基金で毎年400人前後の子どもたちに奨学金を届けています。地域別に見ると、ベトナム南部が最も多く、次いで北部、中部と続きます。

多くの方に支えられ応援を続けられたことに、心から感謝申し上げます。

このたび、私たちのカウンターパート（協力先）である青葉奨学会の事業方針変更に伴い、ベトナム子ども基金の里親基金・黄梅基金等の支援地域を変更することになりました。子どもたちが通う学校の先生方との連携を強化し、よりよい支援を行うための変更です。2021-2022年度の支援地域は北部のフート省、中部のクアンナム省、南部のロンアン省、タイニン省（一部の地域）、ホーチミン市に決定しました。

青葉奨学会は、たとえ手間がかかったとしても、子どもたちと交流し毎年面談を行って、励まし、応援する機会を大切にしています。そこで、今回思い切って、青葉奨学会のスタッフが直接訪問できる地域に絞り、学校との連携を強化しながら、奨学金を続けていくことになりました。

今まで里子制度は小学校から高校卒業まで、子どもの成長を応援してきました。今年から始まる支援制度では、青葉奨学会と一緒に子どもたちを応援してくれる先生方がいる学校単位で支援していきます。里子が支援対象の学校に進学をしていけば、成長段階を見守っていただけますが、支援対象ではない学校に進学すると、支援ができなくなりました（一人の里子を小学生～高校生まで支援していただくことが難しい場合が出てきました）。

これらの方針変更について、私たちは2021年1月8日に連絡を受け、青葉奨学会、青葉奨学会と連携している他団体、ベトナム在住の方々等と協議を続けてきました。

現在の里子が支援対象から外れてしまう場合でも、学校を卒業するまでは、なんとか支援を続けたいと手を尽くしましたが、よい方法が見つかりませんでした。信頼できる現地の奨学会抜きでは、子どもたちにお金を届けることはできません。支援ができなくなってしまうます。

コロナ禍で両親の仕事がなくなり、貧困家庭の里子の中には教育を受けることが難しくなった子どもたちがおり、勉強が遅れていないか？ 将来の希望を失わないか？ と心配をしています。

都市部ではコロナ禍で経済活動が思うように行えず、田舎では干ばつなどでの自然災害で農業が思うようになりません。

ホーチミン市内の小学校1年生は2021年12月13日から対面授業再開の予定でしたが、コロナのまん延で急きょ停止になり、青葉奨学会も一部の小学校には書類（里子の履歴票）を取りに行けなくなり、中部では、青葉奨学会担当者が学校へ協力要請に行くことができず、支給を断念した学校もありました。

私たちの活動が始まった1995年から、ベトナムの経済は飛躍的に発展しましたが、貧富の差はむしろ広がりました。経済発展から取り残された家庭の子どもたちは、これまで以上に貧困の連鎖から抜け出しにくく、希望を持ちにくい環境に置かれています。

日頃から子どもと接し、家庭状況もよく把握している学校の先生方との連携強化、教育支援の重要性は増すばかりです。皆さま方には、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

会員さん紹介

「国立ハノイ小児病院」のお医者さんで、現在日本に留学（帝京大学大学院の博士課程）している会員のゴ・ティ・ハウンさんを紹介します。

「旅の思い出」

1年の最後の日々、外国での長い休日が続く、ベトナムにいたときの多忙な毎日とは違って、ゆっくり「蛍の光」を聴いていると、ベトナムのボランティアの旅の思い出があふれ返ります。私は医科大学を卒業して以来小児科医として病院に勤めて、ベトナムの貧しい地域に住んでいる子どもたちの診察といったボランティア活動によく参加しました。毎回旅が終わったら私の中の思いは絶えなく、自分の国にはまだ貧しい地域がたくさんあって、かわいそうな子どもたちがたくさんいることを実感します。

その中で一番思い出に残った旅は、ベトナムと中国との国境に接する北東部で最も遠い地区のラオカイ（Lào Cai）省バットサット（Bát Xát）郡イティー（Y Tý）町での学童の診察です。私たちのグループは2017年の初秋の日にイティーに到着しました。車から降りて初めて実感したのは新鮮な空気と静かな空間で、肌寒いことでした。翌朝、この高い地域の違いをよりはっきりと感じました。ハノイではまだ半袖を着ていましたが、ここでは雲が至るところに覆われて、ハノイの真冬の日のような天気でした。薄い上着を持ってきましたが、まだ足りないようでとても寒かったです。

時間になったら子どもたちはイティー1の小学校のグラウンドに集まって待っていました。午前8時に診察を開始しましたが、医師の人数が少なかったためとても忙しかったです。私は（寒かったので）部屋に寄り添って座って、子どもたちが一人ずつ入ってくるのを待ちました。子どもたちの第一印象は、澄んだ瞳、無垢で奇妙な表情でした。なんて素敵なのでしょう。しかし、すぐに息ができなくなるように胸が痛くなりました。戸惑う顔、淡い色が混ざった暗い肌が私の目の前に現れました。子どもたちが着ていたのはボランティアグループから寄贈された壊れやすいポロポロの服、使い古された古着、靴下を履いていない足にバラ

ンスが崩れた大きなスリッパです。子どもたちは体が小さくて無力で座り、そばにはだれもいませんでした。彼らは標準語であるキン族の言語がまだあまり分からず、小さかったから私たちとのコミュニケーションはほとんど行き詰まりました。私たちは小学校の先生らに通訳として行動するように頼まなければなりません。子どもたちは学校に住んでいるので、両親がいないことは私も理解していました。今ここにいる子どもたちがどれほど小さいかを見て、平野地域の子どもたちは皆、診察のときに両親が彼らのそばに座って、彼らを慰めたことが心に浮かびました。幸いなことに、子どもたちは小さいですが、とても素直で協力的でした。私たちは合図し、子どもたちは指示を正確に理解し、それに従いました。おそらく小さいときから家から離れて暮らすことで、彼らはとても自立するように訓練されているのでしょう。

最初一人の6歳の子に会ったとき、診断書を見ていなかったら、4、5歳だと思いました。ああ、全員は5歳の幼稚園児のように見えました。ほとんどの子どもは年齢に見合っていない低い体重であり、発育不全で栄養失調の子どももいます。へき地ではまともな食事すら困難ですが、それでも私の心の感情を抑えることはできませんでした。

それから9歳と10歳の子どもたちが来て、先生たちは何人かの子どもたちを先に診察に連れていきました。聞いてみると、この子どもたちは家族と一緒に住んでいることが分かりました。毎日学校まで歩いて2～3時間かかります。それを考えると、8時にここにいるために彼らは朝の5、6時頃家を出なければなりません。私たちは暖かい布団の中でぐっすり寝ているうちに、ここの子どもたちは高地の凍えるような寒



小学校での子どもたちの診察の様子 (写真左) 左側の女性がホウンさんです。

小学校の宿舎。学校まで家が遠い子どもたちがここで普段生活しています。



さの中を歩いていて、心が痛む…と突然心に浮かびました。

診断の結果、健康に問題があり、薬を服用する必要のある子どももいますが、処方箋が難しくなりました。彼らの両親は読み書きができず、ここにもいませんでした。処方箋や薬を出し、持ち帰るように指示しましたが、悩みがいっぱいでした。薬の正しい用量を服用するのでしょうか。もっと重病になったらどうなるのでしょうか。その思いを小学校の先生たちに話したら、心が痛む話も聞きました。先生たちは病気を抱えた多くの子どもたちを今まで見てきました。彼らの両親は子どもの病気を治すためにシャーマンにしか依頼がなく、そしてその後、二度と学校に行かない子どもたちがいます。

この年齢で、子どもたちは、少なくとも十分なごはん、十分な暖かい服と両親の愛情を持って生活し、病気のときに医療を受けることができるはずですが、

し、いいえ、ここでは自然淘汰が依然としてその役割を果たしており、子どもたちは過酷な環境に適応するように毎日訓練されていました。重病で治療機関に転送された少数民族の子どもがいたことを覚えています。父は医者に話しかけると、さりげない声でこう尋ねました。「治るか。治らなったら帰る！ お腹の中の卵はまだいっぱい…」それを聞いたら、苦笑いしかできませんでした。貧困は彼らの運命をぜい弱にしすぎます。

これまで、都市部のどこかで社会が発展したとき、高地の子どもたちの生活は依然としてまだ非常に貧しく、惨めです。毎年、彼らが平和と繁栄に近づくために必要な知識を使って成長することを密かに祈っています。そして、彼らがこの困難を克服するのを助けるために手を差し伸べるもっと多くの親切な心があることを願っています。ホーおじさんの教えがどこかに響き渡り「…食べ物や衣服で人々の世話をする…」。

2021年度 奨学金支給の様子

2021年2月12日からのベトナムのお正月「テト」前に新型コロナの市中感染が広がり始めていましたが、各地で奨学金支給式が行われました。

しかし、その後のベトナム全土にわたる感染拡大によって、例年通り子どもたちを集めて奨学金を手渡すことが難しくなりました。

感染状況は地域・時期によって異なりますが、厳しい社会隔離政策がとられた地域でも、それぞれの地域担当者は時期をずらしたり、戸別訪問をしたりしながら、さまざまな方法で子どもたちに奨学金を渡しました。

◇ ダナン市奨学金支給 2021年2月

ダナン市の学生への支給は、ドンズー日本語学校ダナン校が担当しています。

ドンズー日本語学校に子どもたちを集め、2021年1回目の奨学金を手渡しました。生徒たちが良い結果を得るためにますます努力することを願い、一人一人に手渡されました。テト前の一日、お菓子とお茶でいろいろな話をしながら和やかな時間を過ごしました。

その後、ダナン市では徐々に感染が拡大し、対策も徐々に厳しくなり、7月には市内全体で厳格な社会的隔離が行われ、集まることはできなくなりました。そのため、2回目の奨学金は個別に渡しました。

このような状況で、市内の学校に青葉奨学会の活動に賛同し協力(指定校)をお願いに行くことができなくなり、2021-2022年度の支給対象地域外となってしまいました。新型コロナが落ち着いてダナン市への支給が復活してほしいと思います。



◇ ロンアン省支給

2020年10月、担当のアン先生、フォン先生が子どもたちの自宅を訪ね、奨学金を手渡しました。

フォン先生は、元ドンティン小学校校長です。現在も

青葉奨学会に協力してくださっています(通信74号P.6)。

アン先生は、元ドンティン小学校の副校長で、退職後学校用器具の倉庫で仕事をしながら、青葉奨学会に協力してくださっています。



アン先生とゴー・ティ・ニュー・フィンさん 7年生



アン先生とフィン・グエン・コンズさん 7年生



フォン先生とチャン・ティ・モン・カムさん 10年生



フォン先生とグエン・ティ・フィン・ニイさん 10年生

コロナ禍でのベトナム事務局（青葉奨学会）よりレポート

2021年12月26日

コロナ感染拡大と厳密な防止対策で通勤することができなくなり、青葉奨学会専任スタッフが退職したため、ドンズー日本語学校の教員が自宅作業を続けていました。

通勤が可能になってから、5月以降事務所にあった書類の整理を始め、12月頭から、日本語教員の中から青葉奨学会担当者を決めました。

それまでに集まっていた子どもからの手紙、履歴票などが、少しずつ日本に郵送されました。まだ提出されていない履歴票は学校が閉鎖している間、受け取ることができませんでした。その後徐々に対面授業が始まり、学校に書類が集まり始めましたが、また閉鎖になったり、担当の先生が感染したりして、書類が未提出な学校もあります。

集まった書類の中にも写真や本人のサインがないなどの不足があるものがあります。例年なら、連絡して不備の修正、補充をすることができますが、今年ではできないのでそのまま受け入れました。日本の皆さまにもご理解いただき、引き続きご支援をお願いしたいです。

ベトナムでは政府が主導となり徹底的なコロナ対策が行われています。コロナ感染のため、ベトナム国内でも、ホーチミン市市内でも、行き来が難しくなり活動が難しい状態がありましたが、心ある有志の皆さまのお力で子どもたちへ奨学金を届け、活動が持続できるよう多大なる努力を続けています。ご理解よろしくお願いたします。

ベトナム子ども基金事務局

* 2022年度の春の木運動はコロナ禍のため中止となりました。来年は再開したいです。



トナムからの手紙

感謝を心に最善を尽くします

グエン・ティ・カム・ティエン

まず第一に、里親さまの健康についてお伺いしたいと思います。最近はお元気ですか？ 里親さまの仕事は安定していますか？ 私と私の家族は元気で、勉強は順調に進んでいます。しかし、ベトナムでの感染症

により、オンラインで勉強しなければなりません。最初は慣れませんでした。数週間勉強した後、慣れました。

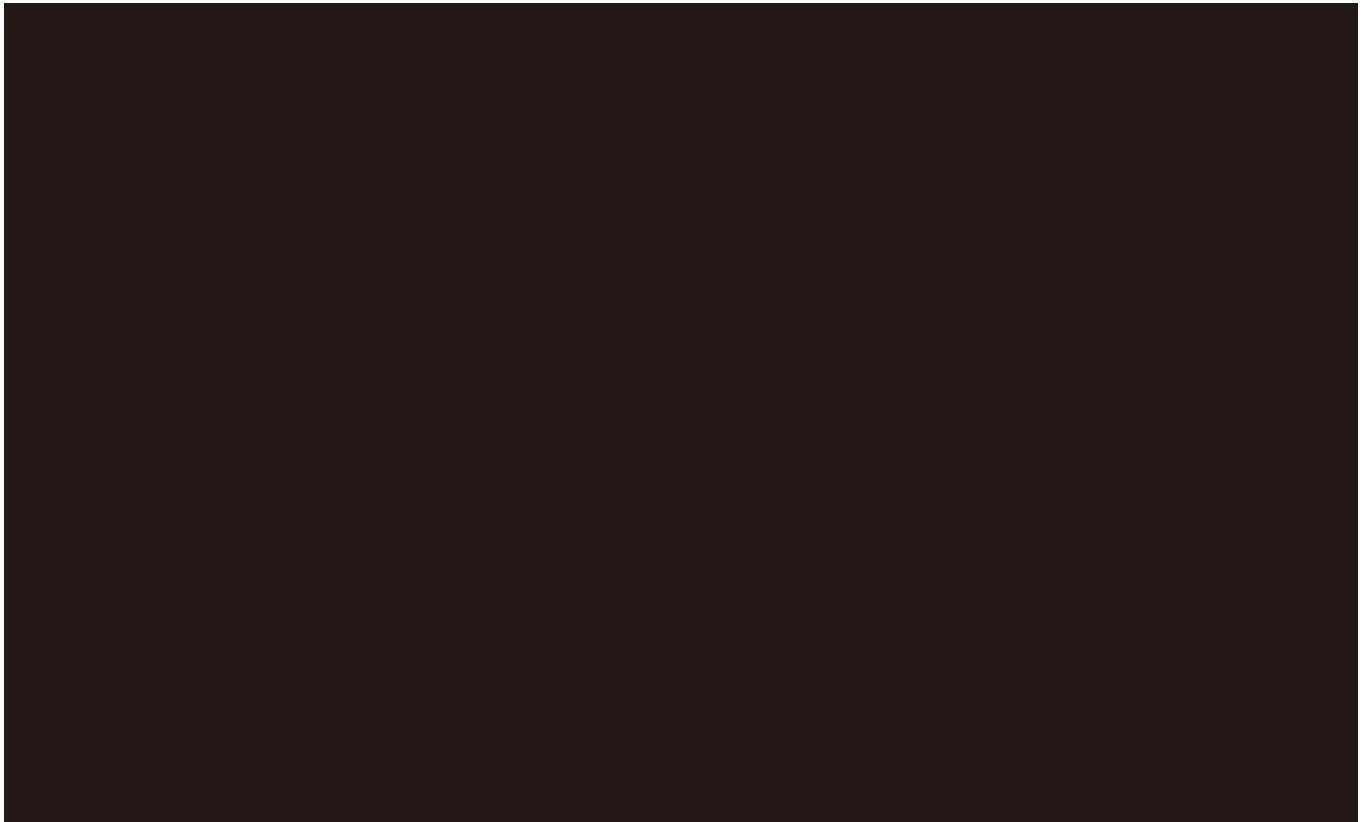
今年は12年生になり、高校の最後の年になりました。来年の専攻と行きたい大学のことをよく考えました。考えた後、銀行と金融を専攻することに決意しました。ホーチミン市の銀行大学に合格したいと思います。私がこの大学に入学したいのは、銀行や金融の研修が充実していて、授業料も他の大学よりも安いからです。両親が高額

な授業料を心配する必要がないようにするためです。両親や里親さまをがっかりさせることなく、将来成功するという自分の夢を実現するために最善を尽くします。

いつも私の勉強と私の家族の生活に伴走し、助けていただいた里親さまに心から感謝しています。里親さまのおかげで、私は毎日自分の勉強に挑戦する意欲を持っています。そして、里親さまのおかげで、私の両親の肩の負担が少し軽減され、毎年、私の世話と学費への心配を助けていただきました。

事務局から

◆ご入金報告 ご支援ありがとうございます(五十音順・敬称略)



◆ベトナム子ども基金を応援してくれているサイトです。

Junijuni 東京ガス

Junijuniでお買い物をしてくださったときに、代金の一部を、ベトナム子ども基金に寄付できます。

URL <https://www.junijuni.jp/>

クリック募金 株式会社 Wakka Inc.

毎日クリックするだけで、ベトナム子ども基金に募金できます。この募金は、ベトナムで事業を展開するIT企業 株式会社 Wakka Inc. の負担によるものです。クリックする方には1円の負担もかかりません。

URL <https://heartin.com>

◆ベトナム子ども基金へのご寄付は、下記の口座をお願いいたします。

<口座名(共通) 特定非営利活動法人ベトナム子ども基金 (カナ): トクヒ) ベトナムコドモキキン>

基金支援会員 (里親基金・里親学生基金・一般基金・法人基金・賛助基金)

郵便振替 00100-6-546799 みずほ銀行駒込支店 普通: 1121865

基金支援会員 (学校建設黄梅基金・個別黄梅基金・ベトナム黄梅基金)

郵便振替 00130-4-552361 みずほ銀行駒込支店 普通: 1121873

運営会員 郵便振替 00100-6-546799 みずほ銀行駒込支店 普通: 1121865